

# 重大事故発生時の対応

## ～救命処置の観点から～



公益財団法人日本AED財団理事  
元さいたま市教育委員会教育長  
埼玉大学教育学部附属  
教育実践総合センター研究員

桐淵 博



独立行政法人教職員支援機構

# ASUKAモデル:桐田明日香さんの事故の概要

**平成23年9月29日 16:04頃**

- 市立小学校6年生の桐田明日香さんが、駅伝大会の課外練習中に倒れる。
- 現場で指導していた教員等は「脈がある」「呼吸がある」ととらえ、心肺蘇生及びAED装着は行っていない。

※痙攣が認められたが伝わっていない。

**平成23年9月29日 16:15**

- 到着した救急隊がC P A（心肺停止）であることを確認する。心肺蘇生を開始する。

**平成23年9月29日 16:37**

- 救急隊から医師に引き継ぐ。

**平成23年9月30日 21:48**

- 死亡を確認する。

救命講習は  
受けていたのに  
なぜ救命処置を  
行わなかった  
のか!?



# 明日香さんの事故の教訓

## 判断・対応に影響すると思われる諸点 (桐淵まとめ)

### <緊急時の判断・対応能力の問題>

- ① 痙攣や死戦期呼吸が心停止の重大なサインであること、そもそも死戦期呼吸そのものについての具体的な知識がないこと
- ② 非医療従事者が混乱した中で脈をとることは困難かつ誤認やCPRの遅れにつながる危険があり推奨されないことが不徹底であること
- ③ AEDには診断機能があり、とるべき行動を指示することへの理解が不足していること

# 明日香さんの事故の教訓

## 判断・対応に影響すると思われる諸点 (桐淵まとめ)

### <学校の危機管理体制の問題>

- ④各学校の危機管理マニュアルはほとんどが大雑把なフロー図であり、具体的な命令系統の確立や傷病者に関する情報の管理、事故の種別に対応した動きのポイントの確認、それらを含めた実際に体を動かして行う対応訓練等が不足していること
- ⑤一般に「養護教諭は医療従事者である」との誤解があり、養護教諭の到着をひたすら待ち、かつ駆け付けた後はすべて任せきりにしてしまう傾向があること

# 明日香さんの事故の教訓

## 判断・対応に影響すると思われる諸点 (桐淵まとめ)

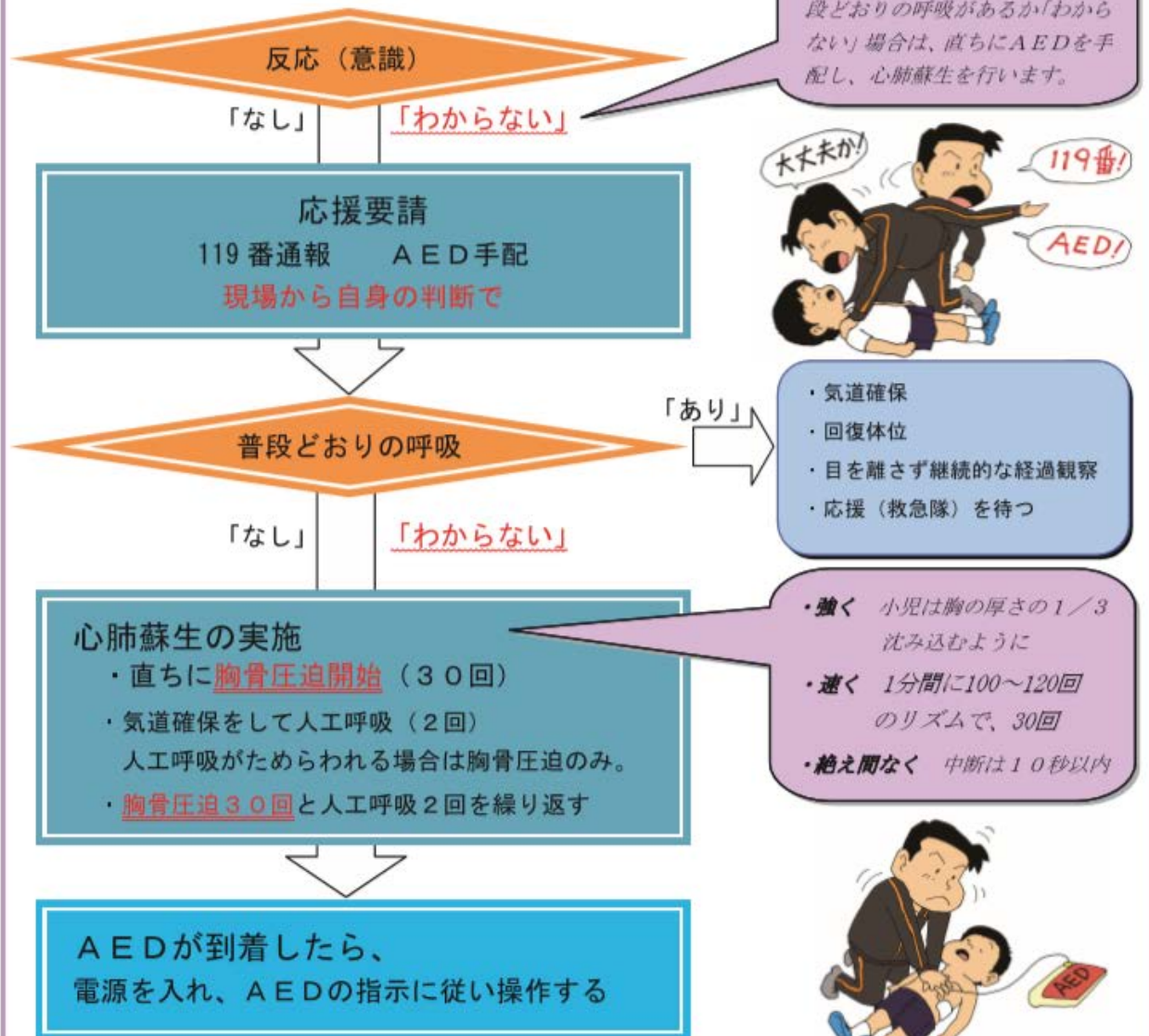
### <教職員の危機意識の問題>

- ⑥教員は普段元気な子どもたちと接しており、突然目の前の子どもが死に直面する場面を想像しにくいこと
- ⑦「事故対応は専門外」という意識が強いこと
- ⑧緊急事態を経験したり適切に研修を重ねたりした教員がいない場合、複数の目はかえって「まさか」「あんなに元気だったのだから」といった「多数派同調バイアス」による「正常性バイアス」の強化を惹起する危険があること

# 傷病者発生時における判断・行動チャート

## ASUKAモデル

「傷病者発生時における判断・行動チャート」



出典：体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～、さいたま市教育委員会

# A S U K Aモデルを活用した「傷病者発生時対応訓練」

(H28年度 さいたま市立小学校)



# さいたま市立中学校での心肺蘇生法の授業の様子

(平成24年6月12日)

(平成24年10月31日)





# 子どもたちの感想

大切な命をまもるために、  
自分にもできることがあると  
わかった。

A E Dは、音声に従って  
操作することができると  
わかった。

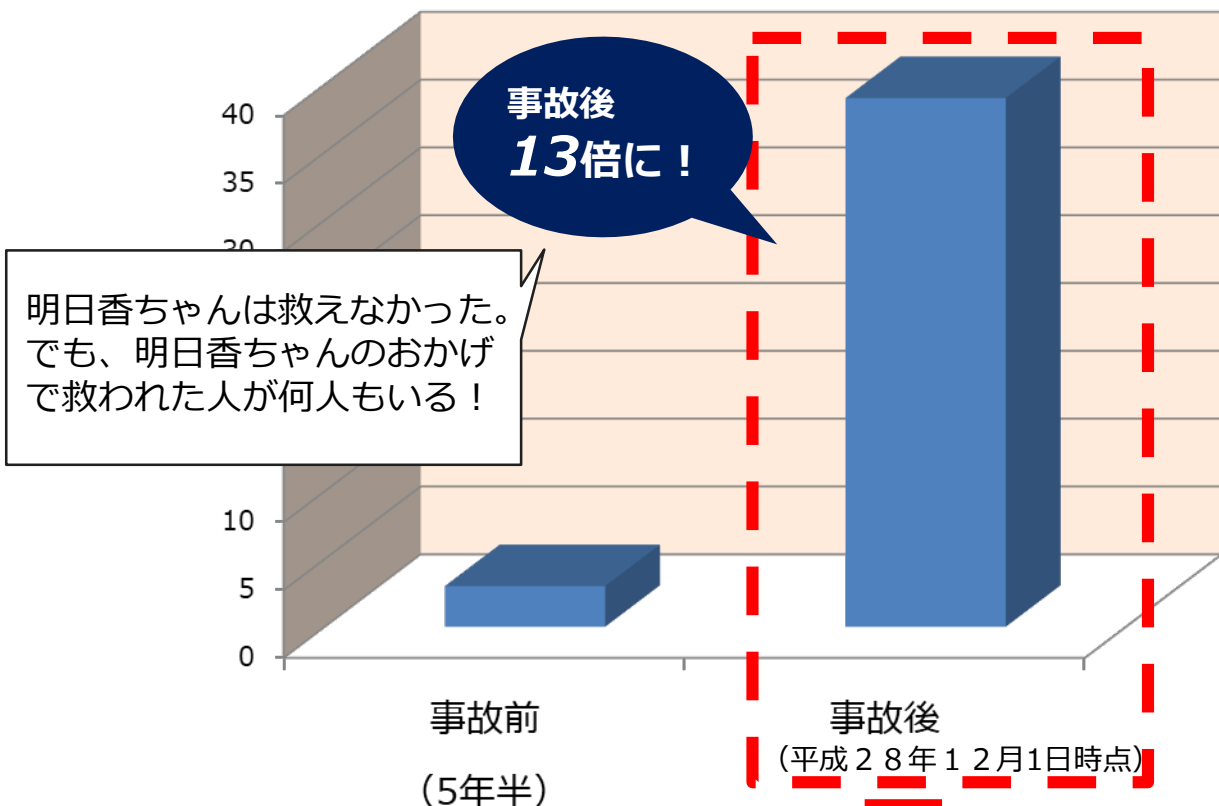


繰り返し練習して、命を  
救える人になりたい。

さいたま市立  
小学校の授業の様子

# この事故による教職員等の意識変化

## さいたま市の教育施設等におけるA E D使用件数



※電極パッド装着をA E D使用とみなしている。

事故後

A E D使用件数 39件

うち

児童対象 11件

生徒対象 17件

その他対象 11件

うち

通電あり 5件

通電なし 34件

○児童生徒に使用した28件のうち、  
通電ありは0件、救命は全28件。

○その他対象に使用した11件中  
通電ありは5件、うち救命4件、  
1件不明。

※通電なしで救命2件

「判断に迷ったらA E Dをつける」という意識の醸成

# 事例

- 中学校 2 年生 重度の障害が残った事例（平成24年）
- 高校 3 年生 死亡（平成26年）
- 高校競歩大会での死亡事故（平成27年）
- 競歩大会での死亡事故提訴へ（平成28年）
- 高校部活動での死亡事故(マネージャー)（平成29年）
- 中学校部活動死亡事故（平成29年）
- 学校の救護不備認定（平成30年）
- AED遅れで死亡と認めず（平成30年）

# 救命教育を巡る構造的課題

## <「知らない」ということ>

- 学校内死亡事故の死因の第1位は突然死であることを知らない
- その場での秒を争う対応が必要であることを知らない
- 実例を具体的に知らない
- 大学では教わらない



- 「素人が手を出したら悪化させる」と恐れる
- 講習内容は「他人事」と思ってしまう

## <救命処置の遅れ>

- 養護教諭の到着をひたすら待つ
- 校長など「責任者」の到着を待つ
- とりあえず担架で運ぼうとする

# 突然死の定義

出典：『学校における突然死予防必携-改訂版-』（H23日本スポーツ振興センター）

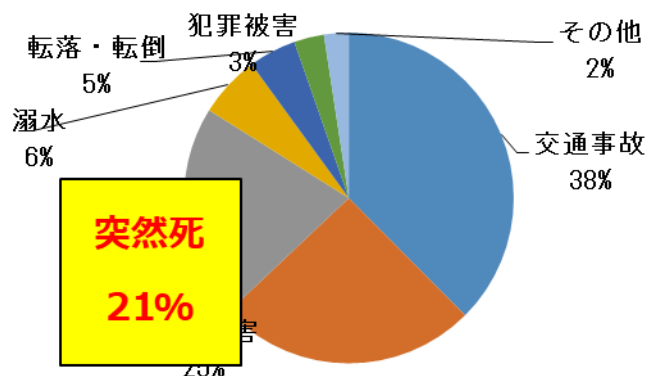
WHO（世界保健機関）：発症から24時間以内の予期せぬ  
内因性（病）死

JSC（日本スポーツ振興センター）：災害共済給付制度上、  
通常は発症から24時間以内に死亡したものとするが、  
救急医療の進歩もあり、意識不明等のまま発症から相当  
期間を経て死亡に至ったものを含む。

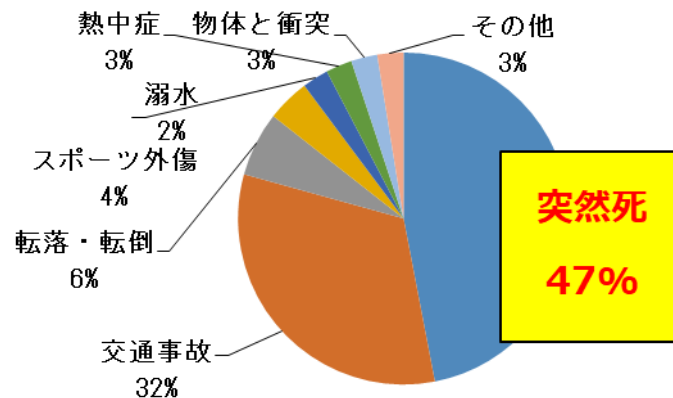
- ・災害共済給付審査委員会により判定
- ・原因により、心臓系、中枢神経系、大血管系その他に  
制度上の分類

# 学校管理下の死亡事故－H11年度～H24年度の累計－

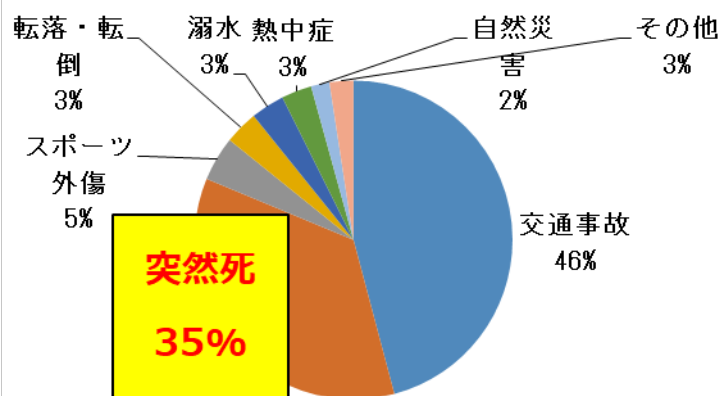
## 小学校 578件



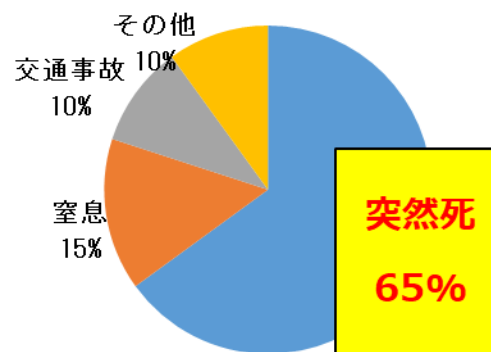
## 中学校 430件



## 高等学校 907件

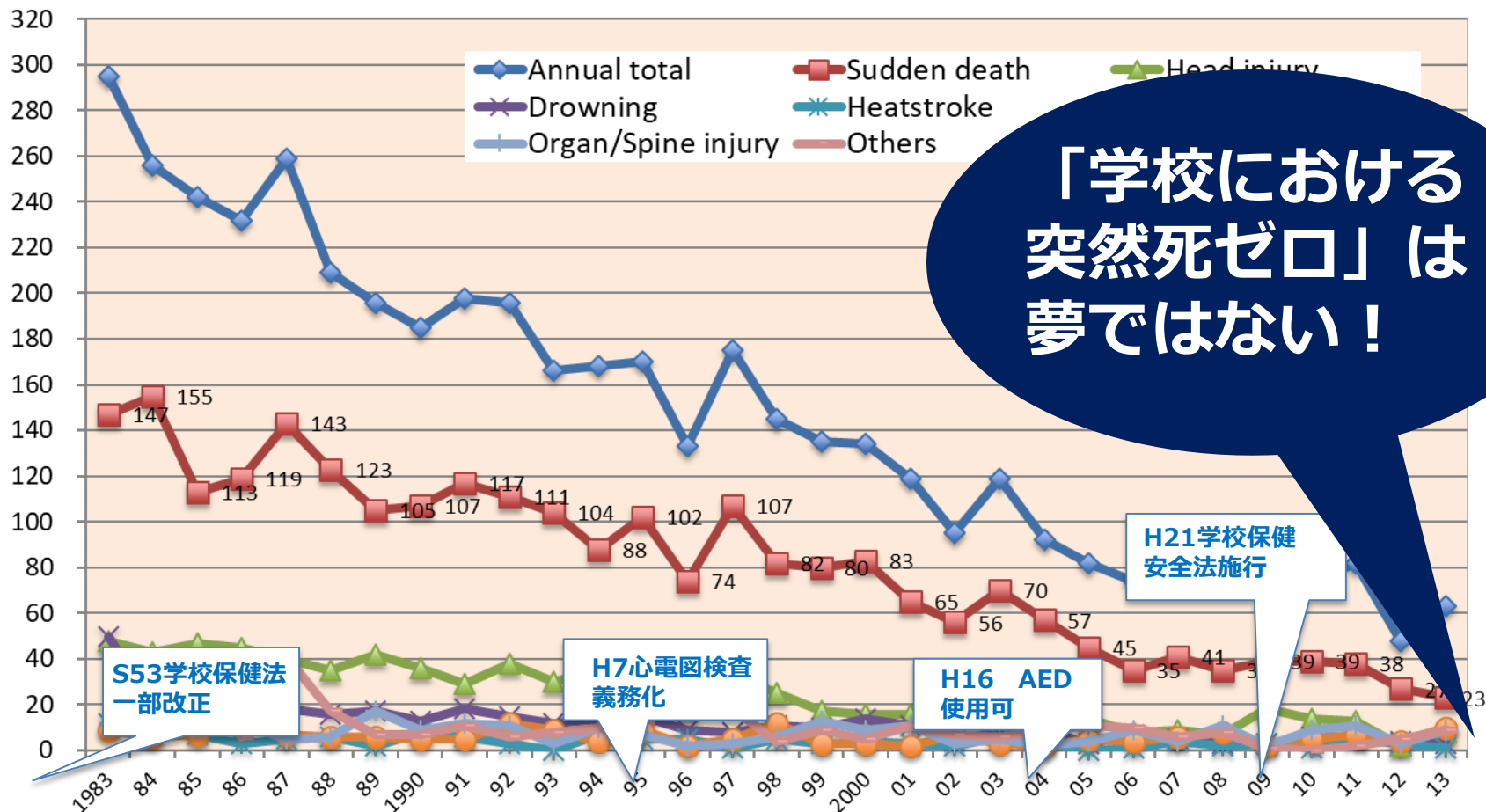


## 特別支援学校 100件



出典：日本スポーツ振興センター

# 学校における死亡事例の推移



「学校における突然死ゼロ」は夢ではない！

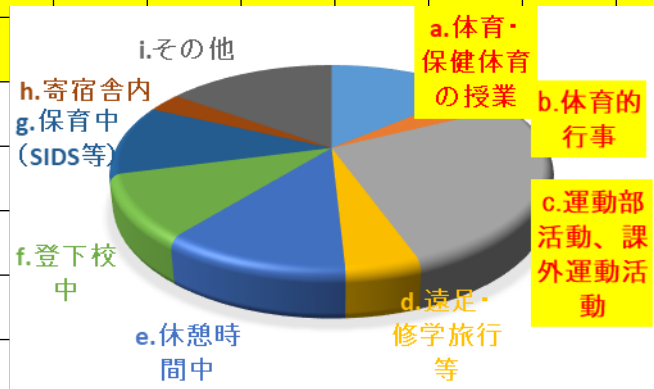
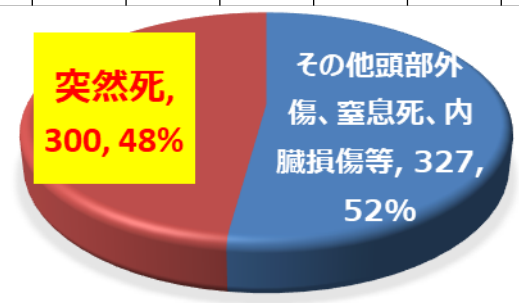
出典：日本大学医学部鮎沢衛氏資料：日本安全教育学会第60回東京大会シンポジウム⑤ 「突然死の予防とA S U K Aモデル」(桐淵が一部追加等改変)

# 学校管理下の死亡事故と突然死

学校管理下の死亡事故と突然死 (小、中、高、高専、特支、幼、保死亡見舞金給付件数)

(出典：H20～29年度 JSC「学校の管理下の災害」より)

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計	割合
管理下死亡数	総計	74	68	7						47	57	627	
その他頭部外傷、窒息死、内臓損傷等		39	29	3						28	32	327	
突然死		35	39	3						19	5	300	48%
突然死の主な内訳	a. 体育・保健体育の授業	5	5							3	1	41	14%
	b. 体育的行事	2	3	1	0	1	1	1	3	0	0	12	4%
	c. 運動部活動、課外運動活動	7								6	9	80	27%
	d. 遠足・修学旅行等	1								0	2	14	5%
	e. 休憩時間中	5								0	3	35	12%
	f. 登下校中	2								3	4	30	10%
	g. 保育中 (SIDS等)	8								2	3	33	11%
	h. 寄宿舍内	0								0	0	9	3%
	i. その他	5	7	3	6	5	2	4	5	5	3	45	15%
うち運動関連	a+b+c	14	16	21	20	8	13	11	11	9	10	133	44%
その割合	a+b+c/突然死	40%	41%	54%	53%	30%	57%	44%	37%	47%	40%	44%	





# 学校管理下の死亡事故と突然死

出典：H20～29年度（H20～29年度JSC「学校の管理下の災害」より）

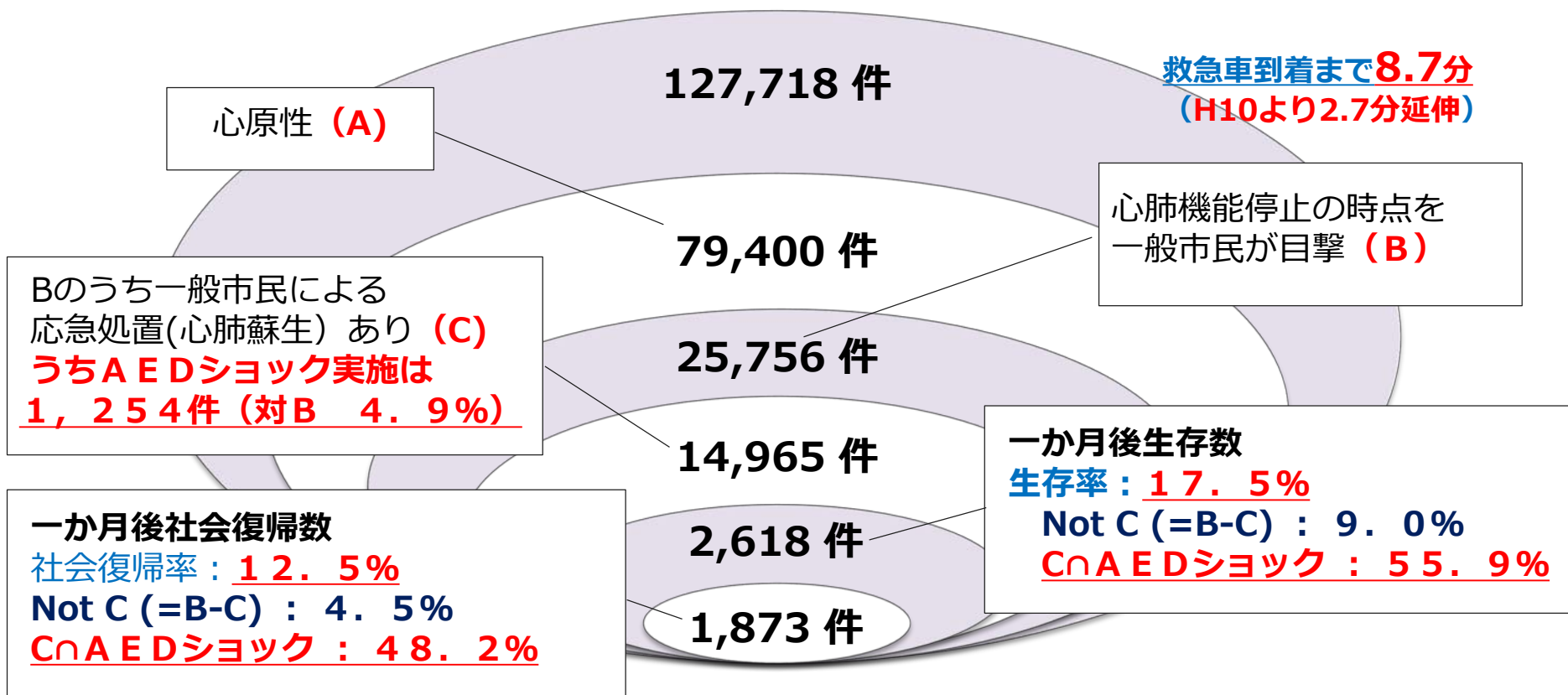
学校管理下の死亡事故と突然死（小、中、高、高専、特支、幼、保）**死亡見舞金** 給付件数

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計	割合
小学校	管理下死亡数総計	6	12	11	13	13	8	8	9	12	8	100	
	突然死	3	10	3	6	9	2	5	4	7	3	52	52%
中学校	管理下死亡数総計	18	13	26	27	8	27	22	22	12	16	191	
	突然死	9	4	14	11	4	11	9	7	1	8	78	41%
高校・高専	管理下死亡数総計	32	31	27	32	17	20	11	23	19	25	237	
	突然死	13	15	15	14	8	6	6	12	9	7	105	44%
特別支援学校	管理下死亡数総計	6	5	5	5	4	4	6	6	2	5	48	
	突然死	2	4	3	3	4	1	4	6	0	4	31	65%
幼稚園・保育所	管理下死亡数総計	12	7	5	5	6	4	4	3	2	3	51	
	突然死	8	6	4	4	2	3	1	1	2	3	34	67%
計	管理下死亡数総計	74	68	74	82	48	63	51	63	47	57	627	
	突然死	35	39	39	38	27	23	25	30	19	25	300	48%

# 心肺停止と市民による応急手当 (H30)

平成30年 日本国内における救急搬送された心肺機能停止症例

(消防庁「令和元年版救急救助の現況」より)



# 日本国内における救急搬送された心肺機能停止症例

(消防庁平成25・26・27・28・29・30・令和元年版「消防白書」より)

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
症例数	127,866	123,987	125,951	123,421	123,554	127,018	127,718
心原性 (A)	73,023	75,397	76,141	73,697	75,109	78,302	79,400
市民目撃(B)	23,797	25,469	25,255	24,496	25,569	25,538	25,756
市民による応急処置(心肺蘇生) あり(C) (対B実施率)	12,248 (51.5%)	13,015 (51.1%)	13,679 (54.2%)	13,672 (55.8%)	14,354 (56.1%)	14,448 (56.6%)	14,965 (58.1%)
<生存> Cの 1か月後生存数	1,741	1,932	2,106	2,195	2,359	2,404	2,618
<生存> Cの 1か月後生存率	14.2%	14.8%	15.4%	16.1%	16.4%	16.6%	17.5%
Not C (= B-C)の 1か月後生存率	8.6%	8.9%	8.4%	9.2%	9.3%	9.4%	9.0%
<社会復帰> Cの1か月後社会復帰数	1,193	1,392	1,476	1,594	1,681	1,724	1,873
Cの 1か月後社会復帰率	9.7%	10.7%	10.8%	11.7%	11.7%	11.5%	11.5%
Not C (= B-C)の 1か月後社会復帰率	4.5%	5.0%	4.3%	4.7%	4.9%	4.9%	4.5%
Cのうち市民によるAEDショック実施数 (D)	881	907	1,030	1,103	1,204	1,260	1,254
Dの対B実施率 (対C実施率)	3.7% (7.2%)	3.6% (7.0%)	4.1% (7.5%)	4.5% (8.1%)	4.7% (8.4%)	4.9% (8.7%)	4.9% (8.4%)
<生存> Dの1か月後生存率	41.4%	50.2%	50.4%	54.0%	53.3%	53.5%	55.9%
<社会復帰> Dの1か月後社会復帰率	36.0%	43.1%	43.3%	46.1%	45.4%	45.7%	48.2%

増えている！

増えている！

増えてない！  
残念！

増えている！

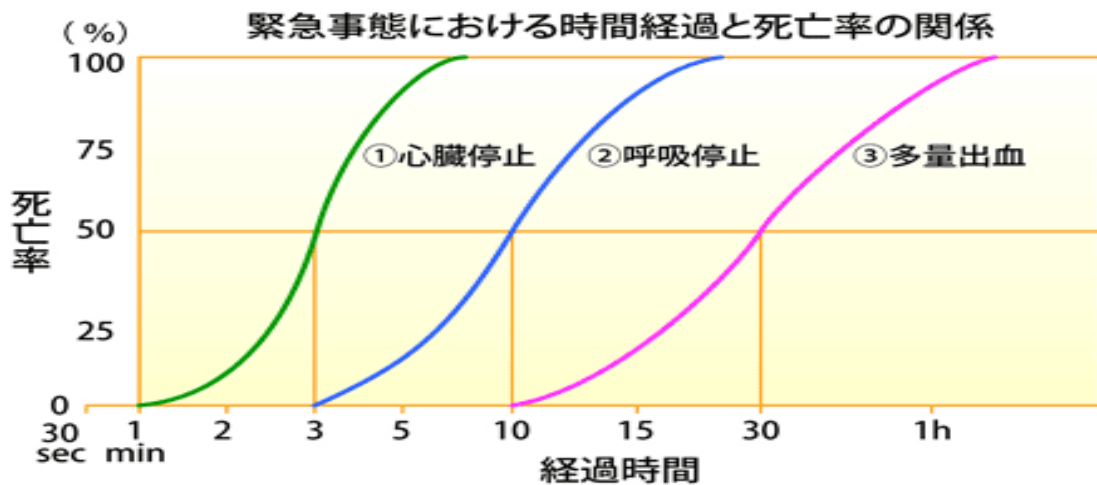
## A E D (Automated External Defibrillator) 「自動体外式除細動器」

- 日本では 2004（平成16）年 市民による使用が認められた。
- 日本では医療機関や消防機関を除いた市民向けのAEDが推定約**60万台**が普及。世界一だといわれている。
- 突然の心停止に対して、胸骨圧迫（心臓マッサージ）と組み合わせて救命の決定打となる。
- 倒れた現場を目撃されても市民による応急処置を受けない場合の1か月後生存率は**9.0%**、何らかの応急処置を受けた場合は**17.5%**、さらにAEDによる電気ショックまでできた場合は**55.9%**に跳ね上がる。
- しかし、倒れた現場を目撃された人に対する市民による電気ショック実施率は**4.9%**（装着はもっと多いはずだが）。直ちに胸骨圧迫を行い、早く装着すれば生存率は大きく上昇するはず。

出典：消防庁『令和元年版救急救助の現況』より平成30年の数値

# カーラーの救命曲線

1981年にフランスのカーラー（Morley Cara）が作成。  
厳密な正確性には欠けるが、目安を示すものとして有効性が評価され、応急手当講習などでよく紹介される。



- ①心臓停止後3分で50%死亡します。
- ②呼吸停止後10分で50%死亡します。
- ③多量出血後30分で50%死亡します。

**救急車到着まで8.7!**  
(H30全国平均)



**「みているだけ」が一番危険!**

- 反応がなかったら**直ちに119番通報とAEDの手配を!**
- 今できる**救命処置をすぐに始める!**

出典：全国健康保険協会 <https://www.kyoukaikenpo.or.jp/>

# 救命のパラダイムシフト

## 救命のパラダイムシフト

がもたらされた！

治療は医師の仕事…

倒れた人に触るな！



ではなく！

救命活動は  
すぐにやる！ だれもがやる！ みんなでやる！  
ASUKAモデルと救命教育の普及を

子どもがうまくできなくても当たり前でも

大人の手助けができる いのちのバトンの第一走者になれる！

文科省も、児童生徒・教職員への実習推進の依頼文書発出

「心肺蘇生等の応急手当に係る実習の実施について（依頼）」（H26,8,13）

# 学校事故対応に関する指針（平成28年3月文科省初等中等教育局）

⇒文科省HP公開

## はじめに

### 1 事故発生の未然防止及び事故発生に備えた事前の取組

### 2 事故発生後の取組

### 3 調査の実施

### 4 再発防止策の策定・実施

### 5 被害児童生徒等の保護者への支援

## おわりに

## 参考資料

事故発生直後の  
取組→応急手当の  
実施

教職員の資質の向上  
→応急手当に関する  
研修

『蘇生ガイドライン』や  
『ASUKAモデル』の  
紹介など

# 学校事故対応に関する指針（平成28年3月文科省初等中等教育局）

## 「研修の例」として

- AEDの使用、心肺蘇生法などの応急手当に関する知識技能の向上
- エピペン®の使用法を含むアレルギーへの対応に関すること

## 「事故発生直後の取組」として

### （1）応急手当の実施

- 事故発生時に優先すべきことは、事故にあった児童生徒等（以下「被害児童生徒等」という。）の生命と健康である。
- 事故が発生した場合まずは被害児童生徒等の医学的対応（応急手当）を行うには、第一発見者は、被害児童生徒等の症状を確認し、近くにいる管理職や教職員、児童生徒等に応援の要請を行うとともに、被害児童生徒等の症状に応じて、速やかに止血、心肺蘇生などの応急手当を行い、症状が重篤にならないようにする（【参考資料3】参照）。

- 救命処置が秒を争うことである点を理解し、行動する。
- 管理職への報告よりも救命処置を優先させる。
- 意識や呼吸の有無が「分からない」場合は、呼吸と思えた状況が死戦期呼吸である可能性にも留意して、意識や呼吸がない場合と同様の対応とし、速やかに心肺蘇生とAED装着を実施する（【参考資料3】参照）。
- 救急車を手配するために119番通報をすると、消防の通信司令員から電話口で指示や指導が受けられるため、心停止かどうかの判断に迷ったり、胸骨圧迫のやり方などが分からない場合は、119番通報した際に電話を切らずに指示を仰ぐ。

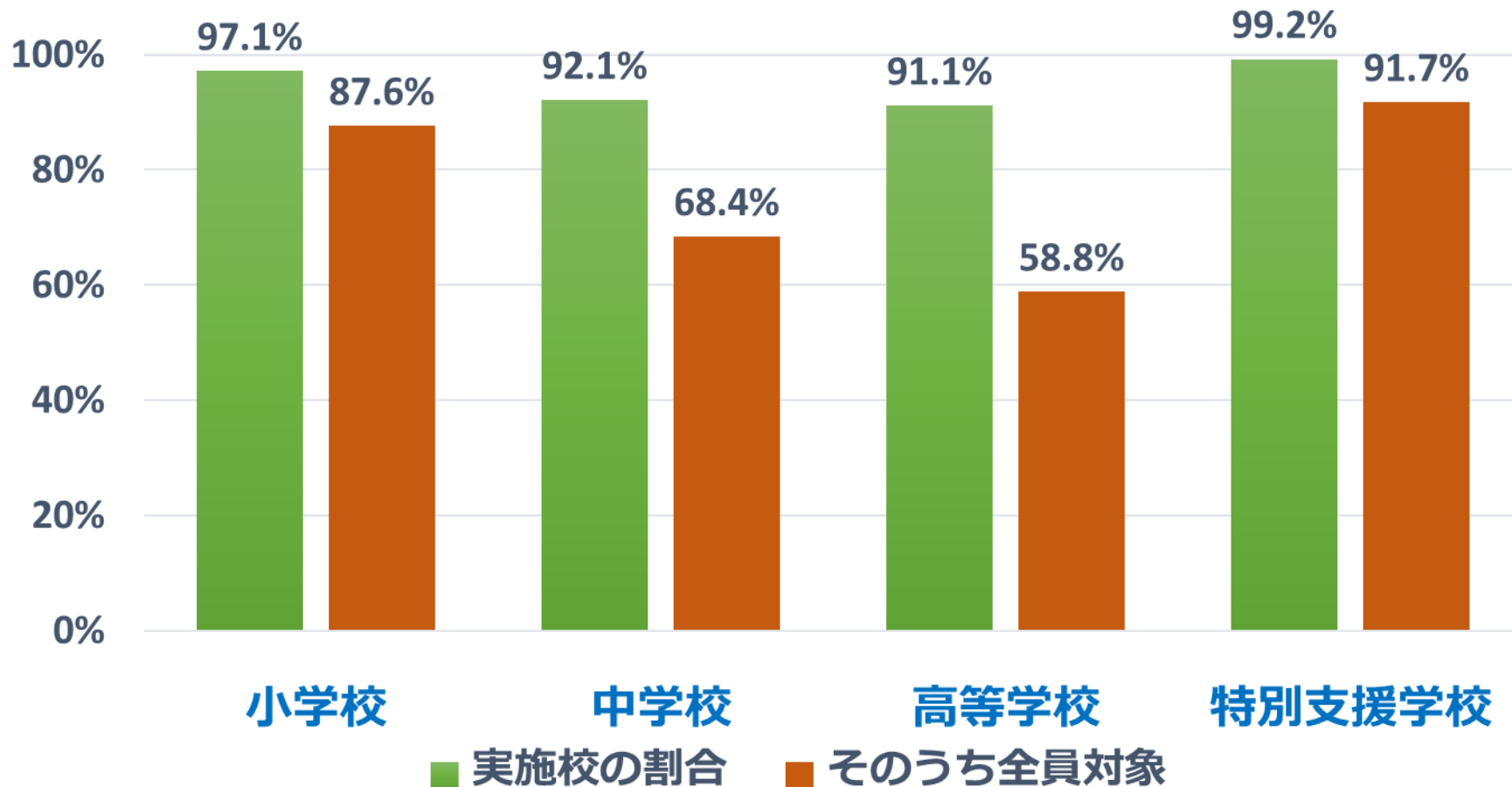
**「管理職の許可で119番」は直ちに是正を！**



# 教職員対象AED使用を含む応急手当実習実施校

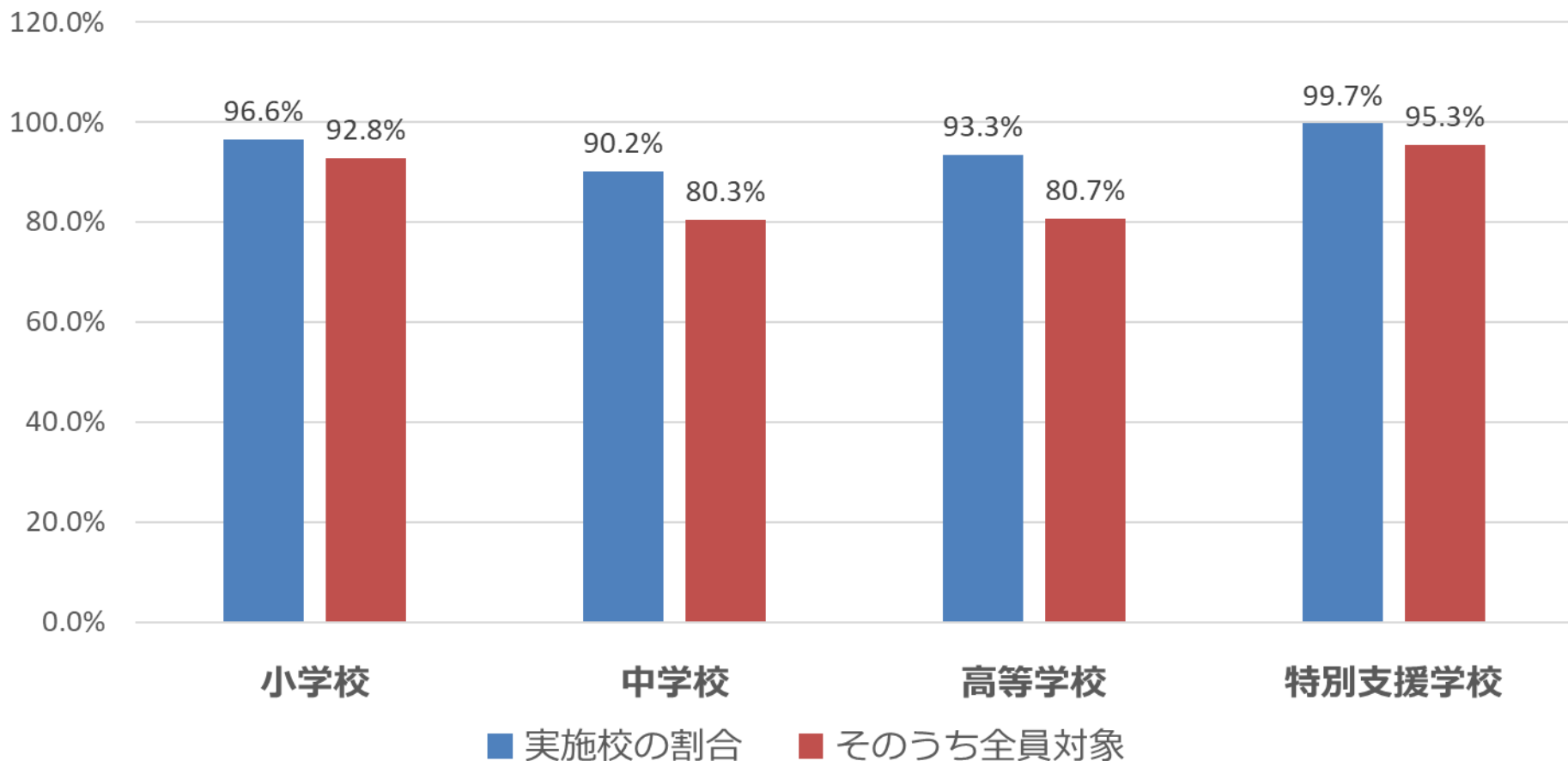
## 教職員対象AED使用を含む応急手当実習実施校

(国公立 平成27年度実績文科省調査)



# 教職員対象心肺蘇生とAED使用の講習会実施率

教職員対象心肺蘇生とAED使用の講習会実施率（公立学校 H29年度実績）



出典：日本学校保健会「学校における心肺蘇生とAEDに関する調査」

# すべての子どもたちに発達段階に応じた救命教育を

ほぼ100%の学校にAEDは設置されている。  
学校にはたくさんの方がいるので倒れる場面はほとんど目撃される。  
迅速な対応で救命できる可能性が極めて高い。



子どもが第一発見者になる確率が極めて高い！

- ・「緊急事態」とは何かを知っておくこと。
- ・「先生を呼びに行く」「AEDを取りに行く」「119番通報をする」ことを知っておくことが大切。
- ・先生が来るまでにも、AEDが到着するまでにも時間はかかる。その間に胸骨圧迫など心肺蘇生をすることの大切さを知っておくことが大切。
- ・先生が来るのが遅れることもある。自分たちでAEDを使えることも大切。



**学校での突然死をゼロに！ BLSを市民常識にして  
安心・安全な社会に！**

# BLS (Basic Life Support)教育 = 一次救命に関する教育

BLS (Basic Life Support)教育 = 一次救命に関する教育は  
学習指導要領の改訂で大きく強化されました

新しい小学校保健の  
教科書に「発展課題」で  
取り上げられる

## 【現行学習指導要領】



## 【新学習指導要領】

小学校

規定なし

小学校 (H29改訂H32全面実施) 規定なし

中学校

中学校 (H29改訂 R3全面実施)

保健体育

保健体育〔保健分野〕 2内容

応急手当には心肺蘇生等がある  
ことについて理解を深める。

心肺蘇生法などを行うこと。  
身に付けることができるよう指導する。

AEDは「必要に応じて触れる」  
(解説)

胸骨圧迫, AED (自動体外式除細動器)  
使用などの心肺蘇生法などについて  
「実習を通して」できるようにする。(解説)

# BLS (Basic Life Support)教育 = 一次救命に関する教育

## BLS (Basic Life Support)教育 = 一次救命に関する教育は 高等学校の学習指導要領改訂でも大きく強化されました

### 【現行学習指導要領】

#### 高等学校保健体育

心肺蘇生等の応急手当は、・・・  
速やかに行う必要があることを  
**理解できるようにする。**

#### (同解説)

気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、  
AED（自動体外式除細動器）の使用  
などが必要であることを  
**理解できるようにする。** その際、  
気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫など  
の原理や方法については、実習を通  
して**理解できるように配慮する**ものと  
する。



### 【新学習指導要領】

#### 高等学校保健体育（H30改訂 R4～年次実施）

次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うこと。

#### (同解説)

実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇  
生法ができるようにする。

その際、複数人数で対処することがより有効で  
あること、胸骨圧迫を優先する ことについて触  
れるようにする。

# 救命教育導入の意義

- **保健や安全**に関する指導の充実 →体育、保健体育（保健分野）  
（中・高の学習指導要領に位置づけあり）
- **助け合い、共助、防災、シチズンシップ**教育の充実  
→特別活動や総合的な学習の時間に関連
- 理念や心情だけでなく、具象として、体温を伴った実践的な学習として扱う**生命尊重**教育の推進  
→道徳や理科等の教科との関連、自殺の予防やいじめをなくす教育との関連
- （カリキュラム論とは別に）**「自己有用感」**の醸成  
→「自分でも人を助けることができる」、「自分は社会の一員として役目を果たすことができる」という認識、生徒指導との関連

# 小学校からの教員による救命教育〈各地の取組例〉

	全校実施年度	学年	実施枠	指導者	備考
さいたま市	H26～	5・6学年	体育	教員	H24・25モデル校
福岡市	H30～	5学年	体育	教員	H27までは消防 H28～消防+教員
上尾市	H30～	5または6学年	学校設定(体育可)	教員	H29教職員研修
つくば市	H31～	4学年	つくばスタイル	教員	H30フォーラム 茨城PUSH支援
羽曳野市	H30～	高学年	保健、総合、 道徳、理科 など	教員	保健主事会中心、ライフサポートセンター支援

○子どもに「責任」を求めない。「だれもが、みんなでやる」こと。うまくできなくて当たり前。

○大切さと方法を知り、できることをやる。大人を手伝う。

- 大人を呼ぶ
- 119番通報をする
- AEDを取りに行く
- 胸骨圧迫を手伝う
- AED操作を手伝う など

○メンタルサポートを重視

※学校単位の実施や消防等の支援による取り組みは多数見られる。

# 子どもには“重すぎる” のでは？

自分自身の救命活動への  
「不安」



子どもには“重すぎる”  
のでは？



「怖い」のは、一人でやろうとするから  
**みんなでやれば怖くない！**



「子どもにやらせる」 ためではなく

大人も子どもも

**「みんなでやろう！」**

と教えましょう

子どもを守  
れる学校は

家族も  
お友達も

先生たちも  
守ります

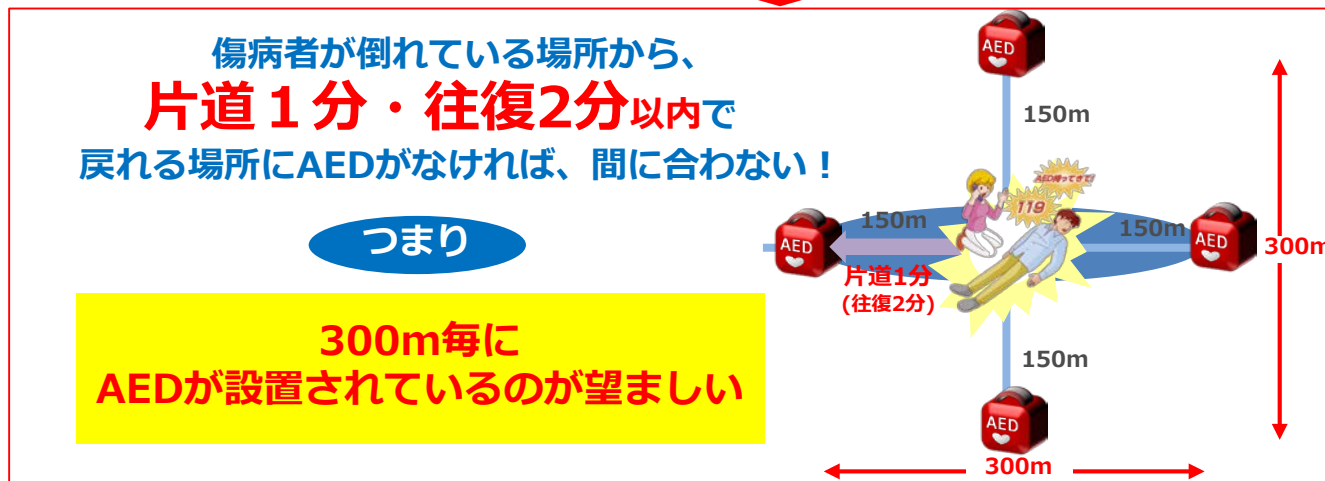
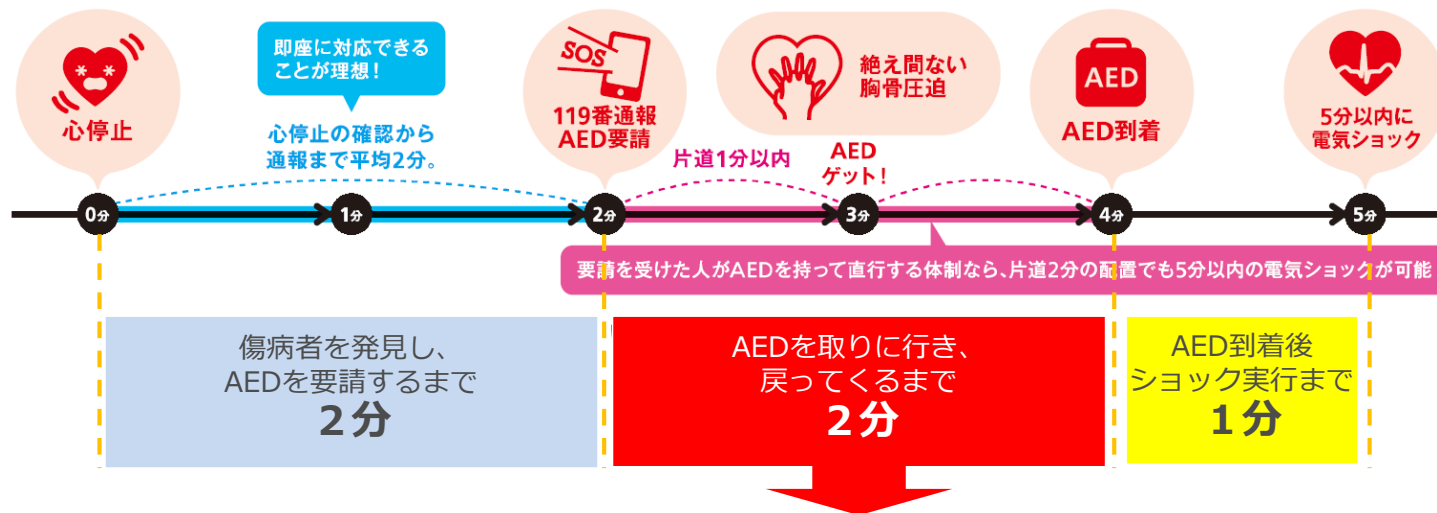




# 5分以内に電気ショックを実行するためには

## AED設置ガイドライン

(日本救急医療財団、日本循環器学会・日本心臓財団ガイドラインより)



# 学校における E A P (Emergency Action Plan)

倒れて反応がない。通常の呼吸がない、分からない。

## 救命活動は

- **すぐにやる！**
- **だれもがやる！**
- **みんなでやる！**

- **その場から119番！** ⇒日常的に携帯電話を身に付けて
- **養護教諭や管理職の到着を待たない！**
- **担架で運ぼうとしない！** ⇒その場ですぐに救命処置開始

## 体育活動等学校行事であれば

指揮命令者をあらかじめ決めておく。

AEDの配備場所などは子どもを含めて参加者全員に周知しておく。

## 通常の授業や休み時間であれば

⇒AEDは取りに行くだけでなくAED設置場所につながる校内の緊急連絡手段

(インターフォンなど)があると理想的。

⇒指揮命令者は駆け付けた教職員の誰かがなる。胸骨圧迫の交替要員を含め、多くの教職員に指揮命令内容シートにある業務を振り分ける。

# 学校におけるEAP (Emergency Action Plan)

学校EAP (Emergency Action Plan) 作成 2019.12.13公表

— 突然死を防ぐためのEAP (Emergency Action Plan)の作成とその実践を—

## 学校での突然死を **0** に!

ゼロ

日本スポーツ振興センターのデータによれば、学校管理下での子どもたちの突然死は幼稚園や保育所を含め2017年度までの10年間で300件のにのぼります。これは死亡事故全体の48%を占め、死因の1位となっています。

一方、学校管理下での子どもたちの突然死は、1980年代当初1年間で150件以上もありました。心肺蘇生やAEDの普及によって多くの子どもたちの命が救われてきたのです。

**学校での突然死ゼロは決して夢ではありません。**

各学校では、緊急時の行動計画を定めそれを実践できるようにしておきましょう。

※Emergency Action Plan : 事故発生時に適切かつ迅速に行動するための緊急時対応計画

### 危機管理体制の整備

<input type="checkbox"/> [危機管理マニュアル]	「緊急時には管理職への報告より救命処置が優先」「その場から119番」を徹底していますか？危機管理マニュアルは定期的に見直していますか？
<input type="checkbox"/> [痙攣者発生時の判断・行動チャート]	人が倒れた時の判断・行動チャートを作成していますか？
<input type="checkbox"/> [緊急連絡体制]	携帯電話所持やインターフォン配備など校内緊急連絡体制を構築していますか？
<input type="checkbox"/> [アクションカード等]	救命の現場での必要な行動や119番通報の仕方などを記載したアクションカードや一覧表を整えて周知していますか？
<input type="checkbox"/> [AED]	AEDは片道1分以内で取りに行ける場所に準備してありますか？ 子どもたちを含め全員がAEDの設置場所を知っていますか？ AEDの標識は各所に見える場所に貼ってありますか？

出典：公益財団法人日本AED財団「学校での緊急時対応計画：EAP」

# 学校におけるEAP (Emergency Action Plan)

## 学校EAP (Emergency Action Plan) 作成 2019.12.13公表

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> [緊急携行物品]        | 緊急時に携行する物品がまとめてあり、全員がその保管場所を知っていますか？                   |
| <input type="checkbox"/> [健康状態の把握]       | 子どもの健康状態が把握され、要注意情報が共有されていますか？<br>天候や運動強度等はチェックしていますか？ |
| <input type="checkbox"/> [消防機関や医療機関との協力] | 関連の消防機関や医療機関との協力体制は整っていますか？                            |
| <input type="checkbox"/> [メンタルケア]        | 救命の現場にいた子どもや大人に心身の不調が出た場合の連絡・相談体制は整っていますか？             |

### 学校関係者への救命教育の推進

- |                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> [緊急事態想定訓練]  | [子どもが突然倒れた]ことを想定した訓練を全教職員で実施していますか？   |
| <input type="checkbox"/> [救命実技訓練]    | 全教職員が心肺蘇生・AEDの実技訓練を定期的に受講していますか？<br>手技だけでなく早期の救命処置の重要性の理解が徹底していますか？   |
| <input type="checkbox"/> [指導者の育成]    | 教員が子どもたちに心肺蘇生・AEDを指導できる体制が整っていますか？  |
| <input type="checkbox"/> [子どもへの救命教育] | 発達段階に応じ、「命の大切さ」を学ぶ一環として心肺蘇生・AEDに関する教育を実施していますか？<br>(例) 小学生   実習を通じて心肺蘇生・AEDの重要性を理解し、<br>「大人を呼びに行く」「救命処置を手伝う」など自分にできることを確認するなど<br>中・高校生   実習を通じて心肺蘇生の方法、AEDの使用法を身に付ける。<br>大人や仲間とともに実際に行動できる能力を伸ばすなど。 |
| <input type="checkbox"/> [保護者への啓発]   | PTA等で心肺蘇生・AEDに関する講習会を実施するなど救命教育の意義について理解を図っていますか？   |

出典：公益財団法人日本AED財団「学校での緊急時対応計画：EAP」

# 学校における E A P (Emergency Action Plan)

学校EAP(Emergency Action Plan)作成 2019.12.13公表

## 「傷病者発生時の判断・行動チャート」(ASUKAモデルより)

取組前に  
まずチェック!

観点	チェック項目	
未然防止	天候	<input type="checkbox"/> 天候については、どのような留意を要するのか。
	健康状態	<input type="checkbox"/> 健康上配慮する子どもは誰か。また、どう配慮するか。
	指導計画	<input type="checkbox"/> 指導者の役割分担は、明確になっているか。
事故発生時の対応		<input type="checkbox"/> 活動の場は、安全が確保されているか。
		<input type="checkbox"/> AED等の重大事故発生時携行機材は、どこにあるか。
		<input type="checkbox"/> 緊急連絡用の携帯電話等は携行しているか。
		<input type="checkbox"/> 管理職及び基幹教諭の所在を把握しているか。
	<input type="checkbox"/> 事故発生時における指揮命令者は、誰か。	

救命処置は“秒”を争います。  
ためらわずに**行動**を  
起こしましょう!

### 【救急車の要請方法】

- その場から携帯電話で119番通報  
→「救急車をお願いします」
- 「～学校です。住所は〇〇〇です。」
- 傷病者の状況(学年・性別・意識の有無・呼吸の有無・けいれんの有無・全身の麻痺の有無)
- 通報者の氏名を伝える



出典：公益財団法人日本AED財団「学校での緊急時対応計画：EAP」

# 学校における E A P (Emergency Action Plan)

## 学校EAP(Emergency Action Plan)作成 2019.12.13公表

「なし」 ↓ 「わからない」

**その場で心肺蘇生の実施**

- ・ただちに **胸骨圧迫**
- ・可能なら気道確保をして人工呼吸(2回)
- ・胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返す

↓

**AEDが到着したら、**  
電源を入れ、  
AEDの指示に従い操作する  
ショック後ただちに胸骨圧迫を再開  
(ショック不要でもただちに再開)

救急隊に引き継ぐまで、  
または傷病者に呼吸や目的の  
ある仕草が認められるまで  
心肺蘇生を続ける。

**救命活動は**  
・すぐにやる!  
・誰もがやる!  
・皆でやる!

**指揮命令内容チェックシート**

- 周囲の安全は確認したか
- 傷病者の状況を的確に把握しているか
- 心肺蘇生を含む応急手当を継続しているか
- 応援の要請をしたか
- 救急車の要請をしたか
- 消防指令センター員による口頭指導を伝達したか
- AEDなどの重大事故発生時携行器材を手配したか
- AEDの電源をいれ、パッドを装着したか
- 保護者に事故概要などを伝えたか
- 周囲にいる児童生徒を離れた場所に移動させたか
- 救急車の進入路を確保しているか
- 救急車の誘導の準備はできているか
- 事故対応について時系列に記録をしているか

救命の現場にいた子どもや  
大人へのメンタルケアを  
心掛けましょう



日本AED財団

編集

〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13山手ビル3号館1階



/ 日本臨床救急医学会

出典：公益財団法人日本AED財団「学校での緊急時対応計画：EAP」



独立行政法人教職員支援機構

# 小学生向けテキスト

## 小学生向けテキスト

- ・授業で使う
- ・アンケートに回答を条件に

日本AED財団HPから申し込み



無償で児童数提供します。



**保護者の方へ**

みんなで作る **AED N@VI**  
みんなの力で集めるAEDの情報をシェアしていく新しいAEDマップ

全国で約7万人
1台あたり約65,000円
約10%増
救命率4倍

AEDの位置情報をシェアすることで、迅速なAEDの使用と救命率の向上を目指します。日本では、心臓発作で亡くなる方は年間7万人、1日約200人、7.5分に1人が亡くなっています。しかし、心臓発作とAEDの使用によって、救命率は4倍になると分かっています。日本に約50万台あるとされるAEDを適切に活用し、一つでも多くの命を救うために、AED N@VIは開発されました。日本では、ほとんどの地域で正確なAEDの位置情報が把握できておらず、その結果、救命率はほんのわずかに増えます。AED N@VIは身近にあるAEDの位置情報を、誰でも簡単に確認し、知らせることで、救命率を倍増させます。皆さんの協力のもと、AEDの位置情報を正確に共有し、AEDの効用が最大限に発揮されることをAED N@VIの目的です。いざという時に誰かの命を救うのはあなたの情報です。ぜひご協力ください。

皆さんのご協力をお待ちしています
無料アンケート申請や、システムの保護、サポートメニュー、Q&Aについては、AED N@VI@HPからご確認ください。
https://aed-navi.jp/

**監修**  
石見 拓 (京都大学健康安全保健機構教授)

**編集委員**  
矢崎 貴明 (学校安全教育部研究開発部長)  
中山 真流 (学校安全委員会委員兼協力向上サポート室)  
野間 力 (さいたま市教育委員会主任指導主事)  
辻野 賢吾 (さいたま市立徳小学校教諭兼教員)  
千田 いずみ (京都府立医科大学健康科学部救急生命学専攻)  
白川 聡史 (兵庫県立川崎病院救急科・救命救急センター医師)  
橋本 博 (埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター研究員)

**企画・制作**  
日本AED財団 魂もせ突然死プロジェクト実行委員会  
https://aed-zaidan.jp/

**協力**  
日本臨床救急医学会 学校へのBLS教育導入検討委員会  
さいたま市教育委員会  
一般社団法人 日本保健衛生学 救急救急医療・災害対策委員会 AED検討小委員会

**協賛**  
協成株式会社  
オムロンヘルスケア株式会社  
公益財団法人 関西日本あんしん社会財団  
第一生命保険株式会社  
日本光電工業株式会社  
株式会社フィリップス・ジャパン  
フクダ電子株式会社  
日本AED財団

**発行**  
全日本学校教員協同組合 (JKK)  
〒113-0027 東京都江戸川区中4-11-10 TEL.03-6231-5005

年 組

出典：公益財団法人日本AED財団「小学校安全教育副読本『命を守る 心肺蘇生・AED』」

# 小学生向けテキスト

## 小学生向けテキスト

- ・ 授業で使う
- ・ アンケートに回答を条件に

日本AED財団HPから申し込み




無償で児童数提供します。

～はじめに～


1年間(年間)に約7万人。これは、日本でとつぜん(突然)心臓(心臓)が止まり、亡くなっている人の数です。そして、大人ばかりでなく元気な子どもにも起こるということを、あなたは知っていましたか？

2011年9月、さいたま市の小学校で、6年生(6年生)の桐田明日香(桐田 明日香)さんが課外で駅伝(駅伝)の練習中にたおれ、亡くなるという事故(事故)がありました。このような事故が、いつあなたのまわりで起きるかわからないのです。

みなさんは「命(いのち)」について考えたことがありますか？ 心臓の音(心臓の音)を聞き、自分の命(いのち)を実感(実感)したことや、家族(家族)や友達(友達)の命(いのち)を大切に思ったことはありますか？ 命(いのち)は一度失えば、二度と取りもどすことができない、かけがえのないものです。この本を通して、みなさんが命(いのち)について考え、大切な命(いのち)を守るために、自分にどんなことができるのかを知るきっかけになることを願っています。



桐田 明日香さん



かけがえのない “命”

犬やねこ  
かえるやとんぼ  
花や木  
人間

**もくじ**

はじめに	2	AED(アエド)を使う	8
こんな時、どうしたらいいのかな？	3	AED(アエド)について知ろう	10
救急車(きゅうきゅうしゃ)をよぼう	4	わたしたちにできることを考えよう	12
心肺蘇生(しんぷいそせい)をしよう	6	おぼえておこう、コール&ブッシュ	14

2

こんな時、どうしたらいいのかな？

もしもだれかがとつぜん(突然)たおれたら…

ある日(ある日)、校庭(こうてい)でサッカー(サッカー)をしていると、友達(ともだち)の一人(ひとり)がとつぜん(突然)たおれてしまいました。こんな時(こんなとき)、みなさんならどうしますか？



1 2 3 4

いたっ!

だ、だいじょうぶ?

動(うご)かない… どうしよう?

書いてみよう こんな時、あなたならどうする？

3

出典：公益財団法人日本AED財団「小学校安全教育副読本『命を守る 心肺蘇生・AED』」



# 学校における救命教育の成果（報道事例など）

- ①H27.2.27NHK「ほっとイブニング」
- ②H28.5.23埼玉新聞
- ③H29.11.30NHKニュース(東海)
- ④H30.3.21琉球新報(YAHOOニュース)
- ⑤H30.7.5 TOKYO MX NEWS（H30.7.27NHK NEWS WEB）
- ⑥H30.11.14神戸新聞
- ⑦R1.12.10東京新聞Web

## 学校での救命教育が命を救う

- ①H27.1月山口県萩市駅伝大会で中学校3年生が60代男性の救命に活躍**(ASUKAモデル!)**
- ②H28.3月埼玉県私立高校バスケット部活中の生徒を教師・生徒連携して救命
- ③H29.4月川崎市中学校3年生が自宅で倒れた父親を救命
- ④H30.1月沖縄県高校で長距離走で倒れた生徒を生徒・教師連携して救命**(ASUKAモデル!)**
- ⑤H30.6月東京江戸川区の飲食店で小学生親子二組がAEDリレーで市民を救命
- ⑥H30.10月兵庫県赤穂市中学校3年生が作業中に転落、意識不明になった50代男性を救命
- ⑦H28.11月埼玉県上尾市で体育授業中の中学校3年生を救命**(ASUKAモデル!)**
- ⑧H30.11月埼玉県上尾市で体育授業中の小学校6年生を救命**(ASUKAモデル! 市内2例目)**
- ⑨R1.8.22教員免許更新講習会場で救命された本人から報告がありました**(ASUKAモデル!)**
- ⑩R1.7.30横須賀市の小学校5年生が自宅で倒れた父親を救命

# 教職員研修や救命教育に関連する資料

## 【AED財団HP】 から

- メッセージビデオや関連ニュース映像  
「NHK共同プロジェクト」、「減らせ突然死プロジェクト」
- 小学生向け救命教育テキスト
- 学校での緊急時対応計画：EAP
- AED設置ガイドラインなど

## 【さいたま市HP】 から

- 『ASUKAモデル』冊子、解説書、映像資料など

# 重大事故発生時の対応 ～救命処置の観点から～

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター研究員  
公益財団法人日本AED財団理事  
(元さいたま市教育委員会教育長)  
桐淵 博



独立行政法人教職員支援機構